

# 7. 田植え

田植えの栽植密度は、なるべく、ゆったりと薄く、粗植にしてください。窮屈に混み合っただけで植えられた稲は細く長くなって、軟弱で倒伏しやすく、穂も小さくなり、結局は米の品質・収量とも良くなりません。

## 【栽植密度】

通常の条間30cmの場合、株間 21cmで植えれば、坪当り50株(平米当り16株)となります。この稲が正常に生長して、1株平均24本の(まともな)穂を着ければ、田圃1坪当り1200本と十分な穂数を確保できます。それぞれの穂が後半に充実して、穂重(1穂粒数と粒張り)を確保すれば、豊かな収穫が得られるのです。

栽植密度は、密植せず、坪当り50株以下を推奨します。

株間	坪当り株数	株当り穂数	坪当り穂数	1穂 粒数	登熟 歩合	千粒重	坪当り 精玄米重	反収
27cm	40株	30本	} 1200本 × 90粒 × 85% × 22g = 2000g 600kg					
21cm	50株	24本						
18cm	60株	20本						
(16cm)	(70株)	(17本)						

※穂重の構成要素については、ここではごく一般的な数値を掲げておきます。

## 【1株の本数】

1株の植え込み本数は2~3本植えの細植を推奨します。多くても4本までが限度です。

1株4本以上の太植になると、株の中で他の苗に挟まれた苗が、受光・根の伸び・分げつを阻害されて、株元が張らずにズンドウとなり、葉を長く伸ばし、まともな穂はつけにくいのに地力栄養や太陽光線を奪うので、減収の原因となります。

株全体はドーナツ状に真中が弱くなり、イモチなどの病気も多くなります。また、分げつ過剰・過繁茂によって、充実した穂が少なくなります。無駄な苗を植えないことが大事ですから、2~3本植え、1本植えでもよいのです。

## 【田植機の苗取数設定】

薄蒔きの苗で欠株を出さないためには、田植機を通常の横取り26回ではなく、横取り20回とします。1合蒔きの苗で、田植機が横取り20回×縦取り58回にすれば、1箱を約1160株に植えることになり、1株2～3本植え、10アール分が15～18箱となります。また、購入苗で厚蒔きの場合は、横取りは26回、縦取りを52回として、細株植えにします。

苗の播種量	（催芽初 の重量）	田植機の設定		1箱の 植込み株数	1株当りの 平均苗数	10アール分 の箱数
		横取り	縦取り			
1合蒔き	(110g)	20回	58回	約 1160株	2～3本	15～18枚
1合2勺蒔き	(130g)	20回	58回	約 1160株	3～4本	18枚
1合4勺蒔き	(150g)	26回	52回	約 1350株	3～5本	15枚

## 【補植しない】

田圃の端など、まとまった面積に植え損ねた部分は補植しますが、それ以外の、田圃のあちこちに植わっていない場合は、原則として補植はしないでください。10株に1株までの欠株は、周囲の株が張って来るため、収穫量には影響がないというのが、全国のデータです。特にこの栽培方法の場合は、5株に1株が欠株であっても収量は落ちません。



▲田植え直後の田圃

株間21cm、坪50株植え。1株:2～3本植え。1本のもあります。欠株はあってもよい。10アールに苗箱16枚ほど。